

学則の変更の趣旨等を記載した書類

目次

ア 学則変更(収容定員変更)の内容	p.2
イ 学則変更(収容定員変更)の必要性	p.2
1. 愛知学院大学の概要及び経緯	
2. 収容定員変更の必要性	
ウ 学則変更(収容定員変更)に伴う教育課程の変更内容	p.3
(ア) 教育課程の変更内容	p.3
1. 心理学部における教育課程の変更点	
(1)社会・産業構造の変容に伴うストレスマネジメントとコミュニケーションスキル	
(2)進路に応じた高度な知識と技能の修得	
a.心理学実践分野	
b.多文化・共生分野	
c.情報・ビジネス分野	
(イ) 教育方法及び履修指導方法の変更内容	p.6
1. 履修単位および卒業要件の変更	
2. 教育方法の変更内容	
a.専門基礎科目と専門展開科目	
b.専門総合科目	
c.専門基幹科目	
d.専門展開科目	
3. 履修指導方法の変更点	
4. カリキュラム変更に伴う教育内容の質的維持	
(ウ) 教員組織の変更内容	p.9
(エ) 大学全体の施設・設備の変更内容	p.9

ア 学則変更(收容定員変更)の内容

2022(令和4)年4月より本学は心身科学部心理学科を改組し心理学部を設置する。そして心理学部の收容定員を変更することに伴い、次のとおり收容定員を変更する。

学則第6条における記載内容の変更

	学部	学科	入学定員	編入定員		收容定員
				2年次	3年次	
現行	心身科学部	心理学科	140名	1名	1名	565名
変更後	心理学部	心理学科	160名	1名	1名	645名

イ 学則変更(收容定員変更)の必要性

1. 愛知学院大学の概要及び経緯

学校法人愛知学院は、明治9(1876)年に創設され、本年で145年の長い歴史と伝統を有する中部地区で最も由緒ある学園の一つである。愛知学院大学は昭和28(1953)年に創設され、本年で開学68周年を迎える。現在9学部18学科、大学院9研究科(博士前期課程、後期課程)および短期大学部1学科、学生総数約12,000名と、中部地区における最大級の規模と内容を誇る私立総合大学となっている。また、系列校として歯科技工専門学校、愛知高等学校及び愛知中学校などを有し、中学から大学・大学院までの一貫教育を行う私立の総合学園である。

特に平成26(2014)年4月からは新たに名古屋の都心に名城公園キャンパスを開設し、教育研究における互いの連携を強化するだけでなく、中部経済圏の要である名古屋を中心とする地域経済との連携を強化して地域貢献を果たしていく体制を整えた。

愛知学院が創立から今日まで一貫して堅持し続けてきた建学の精神は「行学一体・報恩感謝」である。仏教精神、とくに禅的教養を基礎として、行学一体の人格育成に努め、報恩感謝の生活のできる社会人を養成することが本学の使命である。

行学一体における行とは人間形成を、また学とは真理探究を意味する。行と学が一体であるとは、単に知的な理解にとどまらず、修得した学問を自ら身心を傾けて体得して人間的に立派になることを目指す学修態度を意味する。行と学はそれぞれ別個ではなく、行に徹することは学に徹することであり、学に徹することは行に徹することである。また、釈尊の教えによれば、われわれ一人ひとりあらゆる存在との相互依存の関係においていかされている。ひとは数多くの他者の恩をはじめ、天地自然の多くの恵みや地上すべての生きものから恩恵を受けているがゆえに、このことを自覚して、限りない恩に報いるべく社会のために尽くさねばならないのである。以上の建学の精神のもと、真理探求と人間形成を一体に実践して人格形成に努め、日常生活のなかで報恩感謝を実践できる社会人を養成することが、本学の教育理念である。

2. 收容定員変更の必要性

心理学部では、多種多様に変化する社会からの要請と期待に応えるべく、これまでの心理学の基礎教育を拡張させ、応用的分野まで拡充させた教育システムを構築する必要性を実感している。過去5年間の全国心理学部への入学希望者は微増傾向にある

こと（資料 1）。加えて教育方針の変更と共に心理学を志す受験者層が変化していくことを予見し、今回の収容定員変更として本申請に至っている。

心理学部は 1970（昭和 45）年に文学部内に創設され、2003（平成 15）年の心身科学部心理学部への改組を経て、現在 50 年の歴史を迎えた。今日までの教育活動において、心理学の幅広い分野における基礎教育を基盤に、これまで臨床心理士や公認心理師の育成を継続的に行ってきた。1998（平成 10）年には大学院博士前期課程において臨床心理士養成指定大学院となっており、心理学実践分野において多くの臨床心理士を輩出してきている。また 2018（平成 30）年より公認心理師のための新カリキュラムを開始している。以上のように、我々は心理学教育の立場から、医療、福祉、教育分野において少なからず貢献してきている。

しかしながら、近年、少子高齢化、グローバル化、デジタル化の影響を受け、産業構造の変化や近年の働き方改革による生活様式の変化（資料 2,3）により、新たな心の問題に直面している。これらの多岐にわたる構造変化は、日常生活に新たな利益をもたらすとともに、従来では把握されなかった新たな心理的諸問題も同時に発生している。また、2020（令和 2）年に発生した新型コロナウイルス感染症は、少なからずコロナ禍による新しい生活様式もそれらの変化を加速させた一因として伺える。すなわち、心理学に対する教育ニーズも時代とともに変化してきており、心理学の高等教育においても更なる多様性が求められている。そこで我々は、社会からの要請と期待に柔軟に対応するためにも教育研究の高度化に邁進しつつ、高等教育の拡充を図っていく一層の努力すべきものと考えている。

以上のとおり、心理学部は多種多様に変化する社会からの要請と期待に柔軟に対応するため、心理学の応用的分野（多文化共生分野、ビジネス情報分野）まで拡充させた教育システムを構築するとともに、多文化共生社会への適応、心理学に感性工学やデータサイエンスを活用したビジネス応用に関する科目を加えることにより、文理融合型の教育カリキュラムを整備した。既存のカリキュラム・ポリシーから応用的教育を加えるなどの変更に伴い、心理学を志す受験者層が変化していくことに対応を図っている。

現代社会の抱える課題を解決できる有為な人材の育成という社会的ニーズに積極的に応える学部として、これを実現するうえで今般の心理学部設置に伴う収容定員の変更は必要不可欠なものである。故に、今回の収容定員変更として本申請に至った。

ウ 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程の変更内容

（ア）教育課程の変更内容

1. 心理学部における教育課程の変更点

上述のとおり、心理学部の役割は心理学への学問的興味を育むことに加え、その知識と技術の習得により社会貢献できる人材を育成することにある。すべての心理学部学生は、認知、発達、人格、社会、計量の各分野の心理学の基礎的知識を広く学び、ストレスマネジメント力およびコミュニケーションのスキルを高めていくことにある。さらに個々の進路に応じた専門的知識と技能を現実的諸問題に即して、実践的に応用することによって社会貢献できる人材育成を目指していく。

そこで従来の心理学基礎教育に加え、高度な応用的知識とスキルの修得を想定した

カリキュラムとして、従来の臨床心理学、社会心理学、心理統計学の技能的側面を重視した科目を整備し、学生の進路に応じたスキルを修得させる。その特長は文系のみならず理系出身者が選択しやすいカリキュラムである点である。本学は多様な産業に貢献できる人材育成のための教育課程の変更として文理融合型の心理学部を整備した。なお本学部の学則変更による他学部の教育課程への影響はないことを明記する。

(1)社会・産業構造の変容に伴うストレスマネジメントとコミュニケーションスキル

将来的な社会や産業構造の変化に対して、個々が柔軟に対応すべくストレスマネジメントとコミュニケーションスキルを身につけていく必要性が高まっている。我が国では新型コロナウイルス感染予防対策により強いられた働き方の変革は産業構造を変容させ、あらたなストレスに関する問題を発生させている（資料3）。このような構造変革に対して、個々の高い対応力が求められている。

本学では坐禅や心理学的手法（マインドフルネス）などの教育を展開し、多様な社会環境における柔軟な適応性を身につけることを目指していく。このようなストレスマネジメント自体は直接的な経済活動ではないが、職場や家庭環境におけるストレスの軽減により労働の生産性を高めることが以前から指摘されている（資料4）。

認知心理学および社会心理学的視点から、適切なコミュニケーションスキルを修得するための教育を展開する。ネットワークを介したリモートワークは今後も継続されることが予測され、人と人との相互関係も以前とは異なる形態へと変容していくと予測できる。技術革新に伴うコミュニケーション形態の変化は、時には私たちに混乱をもたらすことがある。それ故に、対人コミュニケーションの特性を心理学的観点から改めて顧みることにより、コミュニケーションの形態変化に柔軟に対応できる人材を育成する。

また今日ではデジタルツールを活用したコミュニケーションも重要であることは十分に知られている。そこで人のコミュニケーションの特性を熟知した心理学の知見を活用し、情報の伝達を効率的にするコミュニケーションスキルを修得していく。例えばデータを集約し分かりやすく伝えるプレゼンテーションは、あらゆる様々な業務における相互作用を円滑にし、新しい技術、サービスの提供につなげられることが期待できる。

ストレスマネジメント力やコミュニケーションスキルの向上は、様々な社会／経済活動においても貢献できる。対人関係を原因としたストレス性の疾患や自殺の問題は、社会的、経済的に多大なる不利益をもたらしている（資料5）。これらのスキルの修得は間接的に社会における生産性を向上し、我が国の発展に貢献できるものと考えている。

(2)進路に応じた高度な知識と技能の修得

心理学的見地から、積極的な社会貢献を実現するための応用的知識と技能の修得するためのカリキュラムを整備する。心理学部では『心理学実践分野（含 公認心理師コース）』、『多文化・共生分野』、『情報・ビジネス分野』の3つの応用分野を設定し、心理学部生の進路に応じた専門教育を展開する。

a.心理学実践分野

心理学実践分野では、これまでの公認心理師・臨床心理士の教育を基軸とし、保健医療、福祉、教育、産業等の現場において、心理的援助を施すプロフェッショナルを育成する。本学は主に東海圏において多くの臨床心理士を輩出してきた。今日までの教育経験を活かすとともに地域特性を理解して活動しうる心理臨床家を養成していく。

また大学院進学後の教育を充実かつ円滑にするため、学部において面接法、心理検査法のような実践的科目を加えていく。本学では公認心理師法の施行後に、カリキュラムを改訂したが、心理学部の開設に伴いより良い教育システムを再構築した。学部レベルにおいても早期に実践的内容を経験させることにより、大学院進学の実習、または大学院修了後の現場にスムーズに適応できる人材を養成していく。

b.多文化・共生分野

多文化・共生分野では、多様な分野と連携する視点と技術を持つ人材養成を目的とする。我が国における人種、文化、職種の多様化に伴い、人々の心理・行動特性の理解の多様性も求められる。公務員および民間企業の対面業務において、様々な価値観を共有できるユニバーサルな人材を育成する。

愛知県を中心とした東海圏は異文化コミュニケーションを要する機会も多いと考えられる。他の地域と比べても外国人も多く在住しており（資料 6）、市役所などの公共施設において日本語や英語以外の表記も珍しくない。将来的には在留外国人が増加することも予測され、異なる文化をルーツにもつ人々との円滑なコミュニティーを形成することも重要である。東海圏の特異な社会構造において、柔軟に対応できる人材育成を目指す。

c.情報・ビジネス分野

情報・ビジネス分野では、心理学的知見を産業に活かすため、その足がかりとなるデータサイエンス、感性工学、行動経済学の教育を行っていく。心理学は元来、データサイエンスの基礎となる統計分析を得意としてきた。また感性工学や行動経済学は、心理学と密接にかかわる分野であり、製品／商品開発などに貢献してきたといえる。しかしながら、心理学はこのような強みを未だ十分に活かせていない。

そこで心理学を現状よりも積極的に産業応用していくことが求められる。人の行動特性の計測・分析スキルを持ちつつ、ビッグデータ、仮想現実、人工知能の技術を積極的に融合させ、心理学を基軸に現存する産業への貢献、また新しい産業創成を目指す人材を育成する。

データサイエンスまたはビジネス分野へ心理学の教育を受けた人材を積極的に輩出していくことは、心理学の社会貢献に通じる。心理学科の就職状況を概括すると、販売・営業職に就く卒業生も多いが、情報分野への就職率が上昇している（資料 7）。また、データサイエンス分野は様々な分野からの需要があるが、特に販売・営業と関連する業務の需要が高まっている（資料 8）。このような現状も踏まえ、心理学とデータサイエンスを融合させ、情報系やビジネスに貢献していくための人材育成は、今後の需要が見込めると考えている。

(イ) 教育方法及び履修指導方法の変更内容

1. 履修単位および卒業要件の変更

心理学部への改組に伴い、心理学の基礎分野を幅広く学ぶことを目的として、科目群（専門基礎科目、専門基幹科目、専門総合科目、専門展開科目）の再編を行った。これにより必修科目を 28 単位から 32 単位へ変更した。また学生の進路に応じて応用力を養成できるよう、3 つの分野から構成される専門展開科目を設置し、何れか 1 つの分野を重点的に学修（自専攻分野）することにより卒業要件を満たすことができるカリキュラムを整備した。なお本変更により他学部等に影響を与える科目はない。

卒業要件を以下のとおり定め、以下および下表に記載した。

科目区分		卒業単位数						
		最低限修得すべき単位数						
教養科目								
必修	宗教学I・II	4単位			36単位以上			
	外国語科目	10単位						
	健康総合科目	2単位						
選択	教養基幹科目	20単位以上						
専門科目								
必修	専門基礎科目	20単位		32単位	76単位以上			
	専門総合科目	12単位						
選択	専門基幹科目	自専攻分野 16単位以上				44単位以上 ※演習科目を4単位以上を含むこと		
	専門展開科目						心理学実践	講義科目 4単位以上
							多文化共生	講義科目 4単位以上
							情報ビジネス	講義科目 4単位以上
専門総合科目	卒業論文	6単位						
128単位以上								

- ・ 教養教育科目 36 単位、専門教育科目 76 単位、グリーゼン 16 単位と合わせて 128 単位以上修得する。（履修科目の登録の上限：44 単位（年間））
- ・ 教養教育科目 36 単位、または専門教育科目 76 単位を超えて修得した場合、それぞれ最大 16 単位までをグリーゼン※に算入することができる。
※グリーゼンとは、「教養教育科目」または「専門教育科目」で必要最低単位数を超えた単位や「他学部・他学科科目」で修得した単位等を算入できる科目群を指す。
専門教育科目は、必修科目の 32 単位および選択科目から 44 単位、計 76 単位を修得する。
- ・ 専門教育科目の選択科目 44 単位において、所定の演習科目から 4 単位以上を含む。
- ・ 専門展開科目のうち、心理学実践分野、多文化共生分野、情報ビジネス分野の全てにおいて、講義科目を 4 単位以上の修得をする。
- ・ 専門展開科目のうち、心理学実践分野、多文化共生分野、情報ビジネス分野のいずれか一つの分野を選択（自専攻分野とする）し、上述の 4 単位を含めて自専攻

分野の科目から 20 単位以上を修得する。

- ・ 特別支援教育に関する科目は、14 単位まで卒業要件単位に含むことができる。

2. 教育方法の変更内容

心理学部では、4 年間の学びを卒業研究や進路選択に円滑につなげるため、以下の科目群を再編している。その詳細は次の通りである。

a. 専門基礎科目と専門展開科目（4 単位）

本科目群では、心理学概論 I・II と心理学統計法 I・II に、認知心理学 I、発達心理学 I、人格心理学 I、社会心理学 I を必修科目として加えた。これにより全学生が心理学の基礎知識を、偏り無く学ぶことができる。また専門展開科目にて『心理学実践分野（含 公認心理師コース）』、『多文化・共生分野』、『情報・ビジネス分野』の各分野の講義科目を 2 年次までに 4 単位以上取得し、各分野の特性を学べるように配置した。

b. 専門総合科目

心理学実験 I・II、プレセミナー、総合研究演習 I～III（ゼミ）から構成されている。心理学実験 I・II では 1 テーマ辺りのコマ数を 3 から 6 に増加し、各テーマの解説、統計分析、研究レポート指導に十分な時間を費やすことができるよう変更した。これにより心理学の測定技法を反復して学修することができる。なお 1 セメスターにつき 4 手テーマの計 8 つの実験テーマを扱う。また 3 年次前期のプレセミナーでは、専門性に関係なく求められる技能（文献検索、プレゼンテーション、テクニカルライティングなど）について学習すること、専任教員の専門性について学ぶことを中心に、3 年次後期から開始される総合研究演習 I～III への橋渡しを行うことを目的としている。

c. 専門基幹科目

心理学の基礎知識を深めるための、高度な専門的知識と技能を修得するための科目を配置している。心理学史、生理心理学、調査法など心理学の基礎系分野への大学院進学者に必要な教育を展開する。

d. 専門展開科目

すべての学生が個々の進路に応じた専門性を高めるため自選択分野を設定するシステムを導入した。前途したとおり、心理学部では専門展開科目を設置し、心理学実践分野、多文化共生、情報ビジネス分野のうちいずれか一つの分野を 20 単位修得することを卒業要件としている。3 年次以降は選択するゼミも含めて、個別の進路に応じた履修が可能となっている。以上の変更点は、学年を経るに従って心理学の基礎知識を修得し、個々の進路に応じた専門性を高めることを狙いとしている。

3. 履修指導方法の変更点

心理学部のカリキュラム・ポリシーと教育課程について十分に周知させるため、1 年次から 3 年次の学期開始時にガイダンスを実施する。ガイダンスでは、カリキュラムマップ、単位取得状況、単位履修計画について確認および指導する。学年および学期毎に指導方針を定め、自専攻分野の専門性を高めるための履修計画を立てるよう指導を展開する。

主に指導方針は下表に従って実施する。1年次のガイダンスでは、カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーを繰り返し説明し、カリキュラムマップを十分理解した上で履修計画を立てるよう指導する。2年次では、希望する資格課程に必要な単位取得や、3年次以降の分野の選択ための準備として履修するよう指導する。2年次までに心理学を幅広く学び、3年次以降のゼミ選択（総合研究演習Ⅰ～Ⅲ）が円滑にできるよう指導する。3年次前期には、プレセミナーにて専任教員の専門性と卒業後の進路について情報収集し、学生自身の進路に適当なゼミ選択をすることを指導する。3年次後期は、進路や卒業研究テーマに応じて必要な科目の履修をゼミ担当教員が指導する。

学年	学期	指導内容	目的
1年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> 卒業要件とカリキュラムマップの説明 4年間の履修計画（資格取得を含む） 資格取得のための履修計画 	カリキュラムマップを理解させ、計画的な単位取得を促す
	後期	<ul style="list-style-type: none"> 履修方法 履修状況の確認 	
2年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> 卒業要件とカリキュラムマップの説明 単位取得状況の確認 自専攻分野の選択 資格取得のための履修計画（公認心理師，特別支援課程） 2年次以降の履修計画 	資格取得，分野の選択について学生自身に熟慮させ，3年次以降の進路設計のための履修を計画させる
	後期	<ul style="list-style-type: none"> 単位取得状況の確認 自専攻分野の選択と進路 資格取得のための履修計画（公認心理師，特別支援課程） 2～3年次における履修計画 	
3年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> 単位取得状況の確認 自専攻分野の選択と進路 プレセミナーにおける総合研究演習（ゼミ）の選択 3年次における履修計画 	進路選択および卒業研究について熟考し，得すべき技能と知識を明確にする．
	後期	<ul style="list-style-type: none"> 単位取得状況の確認 自専攻分野における専門性と進路 	

4. カリキュラム変更に伴う教育内容の質的向上

上述のごとく、心理学部における教育指導および履修指導の変更後の教育課程（新カリキュラム）は、変更前の心身科学部心理学科の教育課程（旧カリキュラム）に比べ、同等以上の内容を十分に担保している（資料9）。まず科目を統廃合により旧カリキュラムの多くの科目が新カリキュラム上にて読み替えが可能となっている。さらに新規科目を立てたり、開講学年を変更したりすることにより、旧カリキュラムに不足していた教育内容を補うことができた。

また特別支援課程の一部の資格課程科目は卒業要件に含め、履修科目数の抑制を実現した。これにより、教職課程を履修する学生の負担を軽減できると考えている。さ

らに公認心理師取得関連の科目は、全て新カリキュラムに読み替えられており、資格取得および卒業要件の充足に必要な単位取得には、支障はないよう設計されている。

これらの変更は、他学部のカリキュラム運営には一切影響がなく、心理学の教育課程を従来の内容よりも洗練させることができた。

(f)教員組織の変更内容

心理学部（収容定員：645名／学位分野：文学）の大学設置基準上必要な専任教員数は11名（うち教授は6名以上）であり、教員編制は下表の通りとなっている。各教員がそれぞれの専門分野の教育・研究を行うとともに、必要に応じてオムニバス方式、共同方式を導入し横断的な教育・研究を行う。

	現行	変更後	
	心身科学部 心理学科	心理学部 心理学科	
	令和2年度	令和4年度 開設時	令和7年度 学年進行完了時
教授	8名	9名	8名
准教授	4名	5名	5名
講師	1名	3名	3名
合計	13名	17名	16名

専任教員1名辺りの学生数（ST比）は、届出時点の心身科学部心理学科においては43.5名（ $565 \div 13$ ）であるが、心理学部心理学科の完成時では40.3名（ $645 \div 16$ ）となる。ST比から判断すると変更後の教員配置は現状よりも改善されている。従って、心理学部への改組による教員の補充により、教育の質を維持・改善することができる。また実験助手3名を配置し、実験実習、演習科目、卒業研究等への学術的または技術的サポートが可能であり、十分な教育資源をもって指導を展開できる。

(g)大学全体の施設・設備の変更内容

本学学生の使用するキャンパスは、名古屋市郊外の愛知県日進市と名古屋市千種区楠元・末盛、名古屋市北区名城公園の4キャンパスにわたっている。日進キャンパスには、大学院3研究科（文学・心身科学・総合政策研究科）、大学3学部（文・心身科学・総合政策学部）に教養部（薬学部1年次生を含む）を有している。今回の学生の収容定員の増加を受けても、学生総数一人当たりの面積は、日進及び名城公園キャンパスにおいては校地が約56㎡（総面積502,205㎡）、校舎が約23㎡（総面積207,429㎡）に維持されている。心理学部心理学科の学生が利用する日進キャンパスは大学設置基準面積を大幅に上回るゆとりある学習環境が実現されており、附属施設として、緑豊かな広大な敷地内に講堂（4,186㎡）、体育館（4,855㎡）、スポーツセンター（7,453㎡）、学院会館、学院会館宿舎、合宿所、食堂4棟、研修会館、クラブハウス3棟と、陸上競技場（18,411㎡）・野球場（14,029㎡）・サッカー場（9,075㎡）・テニスコー

ト 14 面 (10,435 m²) の他、多目的グラウンド 3 面 (32,581 m²) が配置されている。名城公園キャンパスは、名古屋都心に位置しており、環境に配慮した最新の都市型キャンパスとして、愛知県庁、名古屋市役所ほかの官公庁、ビジネス街、名古屋駅エリア、栄エリアの躍動する社会が実感・体験できるほか、名古屋城、名城公園など緑も多く自然の安らぎが得られる良質な環境となっている。楠元及び末盛キャンパスは、両キャンパス合わせて学生総数一人当たりの面積が、校地 は約 25 m² (総面積 41,038 m²)、校舎は約 39 m² (総面積 63,863 m²) であり、大学設置基準面積を上回るキャンパスを備えている。

心理学部専用施設としては、9 号館地階に設けているポリグラフ室、データ解析室、全視野刺激室、工作室と、6 つの実験演習室を有しており重要な実験器具が揃う環境である。

また、心理的問題の解決や改善を支援する専門家としての臨床心理士を育成するうえで重要なのが愛知学院大学心理臨床センターである。臨床研修生 (大学院生) は、ここに関する理論や支援の方法について、実践を通して体験的に学ぶことができ、公認心理師・臨床心理士養成のための実践的訓練の場として、指導教員や専任カウンセラーの指導のもと、実際の相談業務に携わり、臨床経験を積むことができる。

心理学部心理学科設置に伴い、より施設設備を充実すべく、他学部で使用していた研究室を複数の中規模教室として改修する計画である。教員・学生ともに多様化するニーズに対応すべく、レイアウト調整が可能なフレキシブルな仕様にすることを目的としており、授業の効率化はもとより、授業時間外では国家試験を控えた学生の自習環境の改善にもつなげる。自習環境が、教員研究室や、専門書を有する資料室により近い場所で整備されることにより、学習環境のさらなる改善を図る。

図書館機能の充実強化については、本学の建学の精神に基づき「教育・研究を支えるための基盤的施設として活動する」などのもと、その機能強化を図るため、施設設備の充実に取り組んできた。蔵書数は全館合わせ図書約 115 万冊、雑誌約 1 万 1 千タイトル、電子ジャーナル約 1 万 5 千タイトル、データベース 30 タイトル、電子書籍約 1 万 4 千タイトル、マイクロ資料約 7 千タイトル、視聴覚資料約 2 万 5 千タイトル所蔵している。座席数は 1,551 席、その中にはキャレル席も含まれている。各キャンパスに図書館(分館)を設置するとともに、電子ジャーナル、データベース、電子書籍の充実を図り、歯学・薬学図書館、MKC 分館とも連携を取り、それぞれが所蔵する紙資料、電子資料なども利用が可能となっている。

学術情報へのアクセスについては、館内に設置された 45 台のパソコン、館外については、学内ネットワークに接続されたパソコンから閲覧・ダウンロードすることが可能となっている。また、VPN 接続により、自宅、外出先などからインターネットを通じて安全に接続可能となっている。ホームページには My Library を開設し、自宅などから、個人の貸出状況をはじめ、学生の希望図書の購入依頼も受け付けが可能となっている。

専門的知識については、専任職員及び派遣スタッフを含め 45 名中 39 名が司書(補)の資格を有し、国立国会図書館を始め、国内、海外の図書館とも連携し、レファレンス関係も充実している。

心理学部の学生が主に利用する日進キャンパス図書館の総床面積は、13,478 m²に及ん

でいる。「自律的な学習を支援し、知識の創造を促すための新しい学習空間」を目指し、1階にはラーニング・コモンズが設置されている。この施設は機能別にエリアが区分されており、多様化する学びのスタイルに対応した場所として、それぞれの特性、機能に応じた学修支援を展開している。3階には視聴覚学習センターも整備されており、DVD、CDなどに対応した機種と、学術分野から一般教養まで幅広い資料を収集しており、授業を始め、自己学習などに利用されている。授業実施日の平日は9時より20時まで、土曜日は13時まで祝日も含め開館している。図書館資料を貸し出す形で、心理学に関係する資料を所蔵する資料室を設置、直接図書館に来なくても図書館資料の利用が可能となっている。

さらには、意見箱の設置など、利用者の意見、要望を取り入れ、常に利用者目線に立ったサービスに努め、予算配分を始め、雑誌、電子ジャーナルなどの継続購入資料の見直しを常に行い、学修、研究に必要な資料の充実に努めている。心理学部の完成年度である令和7年度には図書合計約120万冊を超える資料を所蔵する予定である。

以上の通り、施設・設備については十分に整備されている。収容定員変更前と比べても、十分な内容が担保されていると考えている。

教育課程等の概要															
(心理学部心理学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門基礎科目	心理学概論Ⅰ	1前	2			○			2		1			オムニバス・共同（一部） オムニバス・共同（一部） 兼1 共同 兼1 共同	
	心理学概論Ⅱ	1後	2			○			3						
	心理学統計法Ⅰ	1前	2			○				1					
	心理学統計法Ⅱ	1後	2			○				1					
	認知心理学Ⅰ（知覚・認知心理学）	1後	2			○			1						
	発達心理学Ⅰ	2前	2			○					1				
	人格心理学Ⅰ（感情・人格心理学）	2前	2			○			1						
	社会心理学Ⅰ（社会・集団・家族心理学）	2前	2			○			1						
	ストレスマネジメント入門	2後	2			○				1					
	心理学研究法	3前	2			○			3						
小計（10科目）	—	—	20	0	0	—	—	—	8	2	1	0	0	兼1 —	
専門教育科目	学習・言語心理学	1前		2		○								兼1	
	認知心理学Ⅱ	2前		2		○			1					兼1	
	発達心理学Ⅱ	2後		2		○					1			兼1	
	人格心理学Ⅱ	2後		2		○			1					兼1	
	社会心理学Ⅱ	2後		2		○			1					兼1	
	生理学Ⅰ（人体の構造と機能及び疾病）	2前		2		○								兼1	
	生理学Ⅱ	2後		2		○								兼1	
	神経・生理心理学	3前		2		○								兼1	
	生理心理学	3後		2		○								兼1	
	心理学史	3前		2		○								兼1	
	スポーツ心理学	3前		2		○			1					兼1	
	ポジティブ心理学	3後		2		○					1			兼1	
	カレントトピックスa	3前		2		○								兼1	
	カレントトピックスb	3後		2		○								兼1	
	カレントトピックスc	3前		2		○			1					兼1	
	カレントトピックスd	3後		2		○			1					兼1	
	カレントトピックスe	3前		2		○								兼1	
	カレントトピックスf	3後		2		○								兼1	
	インターンシップ	2前		2				○	1						兼1
	調査法Ⅰ	2前		2				○		1	1			兼2 共同	
	調査法Ⅱ	2後		2				○		1	1			兼2 共同	
	ストレスマネジメント演習Ⅰ	3前		2				○	1					兼1	
ストレスマネジメント演習Ⅱ	3後		2				○	1					兼1		
小計（22科目）	—	—	0	46	0	—	—	—	6	1	1	0	0	兼6	
専門展開科目	臨床心理学Ⅰ（臨床心理学概論）	2前		2		○			1					兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1	
	多職種連携論	2後		2		○				1					
	健康・医療心理学	2後		2		○			1						
	臨床心理学Ⅱ（心理学的支援法）	3前		2		○									
	司法・犯罪心理学	3前		2		○			1						
	精神疾患とその治療Ⅰ	3前		2		○									
	精神疾患とその治療Ⅱ	3後		2		○									
	発展講義a	3前		2		○									
	発展講義b	3後		2		○									
	心理検査演習Ⅰ	3前		2				○	1						
	心理検査演習Ⅱ	3前・後		2				○							
	面接法・介入法（心理的アセスメント）	3前		2				○		2					
	人格・臨床心理学演習Ⅰ	3前		2				○							
	人格・臨床心理学演習Ⅱ	3後		2				○							

教育課程等の概要

(心理学部心理学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門展開科目	文化心理学	2前		2		○					1					
	障害者・障害児心理学	2後		2		○				1						
	教育心理学Ⅰ(教育・学校心理学)	2前		2		○									兼1	
	教育心理学Ⅱ	2後		2		○									兼1	
	障害者教育総論	2前		2		○				1						
	肢体不自由者の自立活動の理論と実際	2前		2		○				1						
	肢体不自由者の心理・生理・病理	2集中		2		○				1					兼1	オムニバス
	知的障害児指導法	2前		2		○				1						
	異文化理解	3後		2		○					1					
	ケアマネジメント	3前		2		○					1					
	発展講義c	3前		2		○					1				兼1	
	発展講義d	3後		2		○									兼1	
	発展講義e	3前		2		○									兼1	
	発展講義f	3後		2		○									兼1	
	発展講義g	3前		2		○						1				
	発展講義h	3後		2		○									兼1	
	発達・教育心理学演習Ⅰ	3前		2				○							兼1	
	発達・教育心理学演習Ⅱ	3後		2				○							兼1	
	社会・産業心理学演習Ⅰ	3前		2				○			1					
	社会・産業心理学演習Ⅱ	3後		2				○			1					
専門教育科目	産業・組織心理学Ⅰ	2前		2		○				1						
	産業・組織心理学Ⅱ	2後		2		○				1						
	データサイエンス入門	2後		2		○					1					
	感性工学	2後		2		○				1						
	消費者行動論	2後		2		○									兼1	
	製品評価の心理学	3前		2		○				1						
	多変量解析Ⅰ	3前		2		○					1					
	多変量解析Ⅱ	3後		2		○					1					
	行動経済学	3前		2		○									兼1	
	発展講義i	3前		2		○									兼1	
	発展講義j	3後		2		○									兼1	
	実験心理学演習Ⅰ	3前		2				○			1					
	実験心理学演習Ⅱ	3前		2				○			1					
	情報ビジネス心理学演習Ⅰ	3後		2				○				1				
情報ビジネス心理学演習Ⅱ	3前		2				○				1	1			共同	
デジタルデザイン演習	3後		2				○			1						
小計(50科目)			0	100	0			-		9	3	2	0	0	兼16	
専門総合科目	心理学実験Ⅰ	2前	2					○		4		2			兼2	共同
	心理学実験Ⅱ	2後	2					○		4		2			兼2	共同
	プレセミナー	3前	2					○		9	3	3				オムニバス・共同(一部)
	総合研究演習Ⅰ	3後	2					○		9	3	3				
	総合研究演習Ⅱ	4前	2					○		9	3	3				
	総合研究演習Ⅲ	4後	2					○		9	3	3				
	卒業研究	4通		6				○		9	3	3				
小計(7科目)			12	6	0			-		9	3	3	0	0	兼2	

教育課程等の概要

(心理学部心理学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
公認心理師 専 用 科 目	公認心理師の職責	2後		2			○		4	1					兼1 オムニバス・ 共同(一部) 共同 共同 共同 共同
	福祉心理学	3後		2		○		1							
	関係行政論	3前		2		○									
	心理演習	3前		2			○		5	1					
	心理実習Ⅰ	3後		1				○	1	2					
	心理実習Ⅱ	4前		1				○	1	2					
	心理実習Ⅲ	4後		1				○	1	2					
小計(7科目)			0	11	0		-	6	2	0	0	0	兼1		
資格 取 得 科 目 に 特 別 支 援 教 育 科 目	知的障害者の心理・生理・病理	2集中		2		○								兼2 兼1 兼1 兼2 兼1 兼1 兼1 兼7 オムニバス	
	病弱者の心理・生理・病理	2後		2		○									
	肢体不自由者教育論	2集中		2		○									
	病弱者教育論	2集中		2		○									
	視覚障害教育総論	2集中		2		○									
	聴覚障害教育総論	2前		2		○									
	重複障害・軽度発達障害教育総論	2後		2		○									
小計(7科目)			0	14	0		-	0	0	0	0	0	兼7		

教育課程等の概要

(心理学部心理学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養教育科目	宗教学Ⅰ	1前	2			○									兼2	
	宗教学Ⅱ	1後	2			○									兼2	
	教養セミナー「学問の発見」Ⅰ	1前		1			○								兼4	
	教養セミナー「学問の発見」Ⅱ	1後		1			○								兼4	
	教養セミナー「学問の発見」Ⅲ	2前		1			○								兼5	
	教養セミナー「学問の発見」Ⅳ	2後		1			○								兼5	
	人文系	哲学Ⅰ	1前		2		○									兼2
		哲学Ⅱ	1後		2		○									兼2
		論理学Ⅰ	1前		2		○									兼2
		論理学Ⅱ	1後		2		○									兼2
		文学Ⅰ	1前		2		○									兼2
		文学Ⅱ	1後		2		○									兼2
		美術Ⅰ	1前		2		○									兼2
		美術Ⅱ	1後		2		○									兼2
	社会系	法学Ⅰ	1前		2		○									兼2
		法学Ⅱ	1後		2		○									兼2
		政治学Ⅰ	1前		2		○									兼1
		政治学Ⅱ	1後		2		○									兼1
		経済学Ⅰ	1前		2		○									兼1
		経済学Ⅱ	1後		2		○									兼1
		社会学Ⅰ	1前		2		○									兼1
		社会学Ⅱ	1後		2		○									兼1
		教育学Ⅰ	1前		2		○									兼2
		教育学Ⅱ	1後		2		○									兼2
		歴史学Ⅰ	1前		2		○									兼2
		歴史学Ⅱ	1後		2		○									兼2
	地理学Ⅰ	1前		2		○									兼1	
	地理学Ⅱ	1後		2		○									兼1	
	自然系	数学Ⅰ	1前		2		○									兼2
		数学Ⅱ	1後		2		○									兼2
		統計学Ⅰ	1前		2		○									兼1
		統計学Ⅱ	1後		2		○									兼1
物理学Ⅰ		1前		2		○									兼1	
物理学Ⅱ		1後		2		○									兼1	
化学Ⅰ		1前		2		○									兼3	
化学Ⅱ		1後		2		○									兼3	
生物学Ⅰ		1前		2		○									兼2	
生物学Ⅱ		1後		2		○									兼2	
情報科学Ⅰ		1前		2		○									兼1	
情報科学Ⅱ		1後		2		○									兼1	
主題系	仏教と現代社会Ⅰ	2前		2		○									兼1	
	仏教と現代社会Ⅱ	2後		2		○									兼1	
	禅と人間Ⅰ	2前		2		○									兼1	
	禅と人間Ⅱ	2後		2		○									兼1	
	生命に関する諸問題Ⅰ	2前		2		○									兼1	
	生命に関する諸問題Ⅱ	2後		2		○									兼1	
	人間行動の理解Ⅰ	2前		2		○									兼1	
	人間行動の理解Ⅱ	2後		2		○									兼1	

教育課程等の概要

(心理学部心理学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養基幹科目	人間の尊厳と平等 I	2前		2		○									兼1	
	人間の尊厳と平等 II	2後		2		○									兼1	
	日本の文化と社会 I	2前		2		○									兼1	
	日本の文化と社会 II	2後		2		○									兼1	
	アジアの文化と社会 I	2前		2		○									兼1	
	アジアの文化と社会 II	2後		2		○									兼1	
	ヨーロッパの文化と社会 I	2前		2		○									兼1	
	ヨーロッパの文化と社会 II	2後		2		○									兼1	
	英語圏の文化と社会 I	2前		2		○									兼1	
	英語圏の文化と社会 II	2後		2		○									兼1	
	人間と環境 I	2前		2		○									兼1	
	人間と環境 II	2後		2		○									兼1	
	情報と社会 I	2前		2		○									兼1	
	情報と社会 II	2後		2		○									兼1	
	産業と科学 I	2前		2		○									兼1	
	産業と科学 II	2後		2		○									兼1	
ソフトウェア概論 I	2前		2		○									兼1		
ソフトウェア概論 II	2後		2		○									兼1		
健康の科学	2前		2		○									兼2		
小計 (67科目)		—	4	126	0		—		0	0	0	0	0	0	兼46	—
教養教育科目	英語 I a	1前	1			○									兼3	
	英語 II a	1後	1			○									兼3	
	英語 I b	1前	1			○									兼4	
	英語 II b	1後	1			○									兼4	
	英語 I c	2前	1			○									兼4	
	英語 II c	2後	1			○									兼4	
	ドイツ語 I	1前		1		○									兼2	
	ドイツ語 II	1後		1		○									兼2	
	中国語 I	1前		1		○									兼2	
	中国語 II	1後		1		○									兼2	
	フランス語 I	1前		1		○									兼1	
	フランス語 II	1後		1		○									兼1	
	韓国語 I	1前		1		○									兼2	
	韓国語 II	1後		1		○									兼2	
	ドイツ文化事情	1前・後		2		○									兼1	
	中国文化事情	1前・後		2		○									兼1	
フランス文化事情	1前・後		2		○									兼1		
韓国文化事情	1前・後		2		○									兼1		
外国語科目	英会話 I	1前		1		○									兼1	
	英会話 II	1後		1		○									兼1	
	英会話 III	2前		1		○									兼1	
	英会話 IV	2後		1		○									兼1	
	メディア英語 I	1前		1		○									兼1	
	メディア英語 II	1後		1		○									兼1	
	メディア英語 III	2前		1		○									兼1	
	メディア英語 IV	2後		1		○									兼1	
	英語表現法 I	1前		1		○									兼1	
	英語表現法 II	1後		1		○									兼1	
	英語表現法 III	2前		1		○									兼1	
	英語表現法 IV	2後		1		○									兼1	

教育課程等の概要

(心理学部心理学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
教養教育科目	外国語科目 エレクティブ	英語読解法Ⅰ	1前	1		○									兼1		
		英語読解法Ⅱ	1後	1		○									兼1		
		英語読解法Ⅲ	2前	1		○									兼1		
		英語読解法Ⅳ	2後	1		○									兼1		
		実践英語Ⅰ	1前	1		○									兼1		
		実践英語Ⅱ	1後	1		○									兼1		
		実践英語Ⅲ	2前	1		○									兼1		
		実践英語Ⅳ	2後	1		○									兼1		
		ドイツ語Ⅰ(基礎)	1前	1		○									兼1		
		ドイツ語Ⅱ(基礎)	1後	1		○									兼1		
		ドイツ語Ⅲ(読解)	2前	1		○									兼1		
		ドイツ語Ⅳ(読解)	2後	1		○									兼1		
		ドイツ語Ⅲ(表現)	2前	1		○									兼1		
		ドイツ語Ⅳ(表現)	2後	1		○									兼1		
		ドイツ語Ⅲ(総合)	2前	1		○									兼1		
		ドイツ語Ⅳ(総合)	2後	1		○									兼1		
		ドイツ語会話Ⅰ	2前	1		○									兼1		
		ドイツ語会話Ⅱ	2後	1		○									兼1		
		中国語Ⅰ(基礎)	1前	1		○									兼1		
		中国語Ⅱ(基礎)	1後	1		○									兼1		
		中国語Ⅲ(読解)	2前	1		○									兼1		
		中国語Ⅳ(読解)	2後	1		○									兼1		
		中国語Ⅲ(表現)	2前	1		○									兼1		
		中国語Ⅳ(表現)	2後	1		○									兼1		
		中国語Ⅲ(総合)	2前	1		○									兼1		
		中国語Ⅳ(総合)	2後	1		○									兼1		
		中国語会話Ⅰ	2前	1		○									兼1		
		中国語会話Ⅱ	2後	1		○									兼1		
		フランス語Ⅰ(基礎)	1前	1		○									兼1		
		フランス語Ⅱ(基礎)	1後	1		○									兼1		
		フランス語Ⅲ(読解)	2前	1		○									兼1		
		フランス語Ⅳ(読解)	2後	1		○									兼1		
		フランス語Ⅲ(表現)	2前	1		○									兼1		
		フランス語Ⅳ(表現)	2後	1		○									兼1		
		フランス語Ⅲ(総合)	2前	1		○									兼1		
		フランス語Ⅳ(総合)	2後	1		○									兼1		
		フランス語会話Ⅰ	2前	1		○									兼1		
		フランス語会話Ⅱ	2後	1		○									兼1		
		韓国語Ⅰ(基礎)	1前	1		○									兼1		
		韓国語Ⅱ(基礎)	1後	1		○									兼1		
		韓国語Ⅲ(読解)	2前	1		○									兼1		
		韓国語Ⅳ(読解)	2後	1		○									兼1		
		韓国語Ⅲ(表現)	2前	1		○									兼1		
		韓国語Ⅳ(表現)	2後	1		○									兼1		
		韓国語Ⅲ(総合)	2前	1		○									兼1		
		韓国語Ⅳ(総合)	2後	1		○									兼1		
		韓国語会話Ⅰ	2前	1		○									兼1		
		韓国語会話Ⅱ	2後	1		○									兼1		
		小計(78科目)		—	6	76	0	—			0	0	0	0	0	兼27	—

教育課程等の概要

(心理学部心理学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養教育科目	健康総合 科学科目	スポーツ科学Ⅰ	1前	1					○							兼5
		スポーツ科学Ⅱ	1後	1					○							兼5
		スポーツ科学Ⅲ	2前		1				○							兼5
		スポーツ科学Ⅳ	2後		1				○							兼5
	小計(4科目)		—	2	2	0	—			0	0	0	0	0		兼6
	海外事情 科目	海外事情Ⅰ	1集中		2				○							兼1
		海外事情Ⅱ	1集中		2				○							兼1
		海外事情Ⅲ	1集中		1				○							兼1
		海外事情Ⅳ	1集中		1				○							兼1
	小計(4科目)		—	0	6	0	—			0	0	0	0	0		兼4
合計(257科目)		—	44	391	0	—			10	5	3	0	0		兼106	
学位又は称号	学士(心理学)		学位又は学科の分野			文学関係										
卒業要件及び履修方法						授業期間等										
【教養教育科目】 ・宗教学Ⅰ・Ⅱ(4単位修得) ・教養基幹科目から20単位以上修得(人文系・社会系・自然系・主題系から各4単位以上修得) ・外国語科目(10単位修得)(英語6単位、4言語の中から1言語を選択して2単位修得。加えて文化事情を2単位修得) ・健康総合科学科目(2単位修得) 合計36単位以上取得 【専門教育科目】 ・必修科目の32単位および選択科目から44単位、計76単位以上修得 ・選択科目44単位において、所定の演習科目から4単位以上を含むこと ・専門展開科目のうち、心理学実践分野、多文化共生分野、情報ビジネス分野の全てにおいて、講義科目を4単位以上を修得 ・専門展開科目のうち、心理学実践分野、多文化共生分野、情報ビジネス分野のいずれか一つの分野において20単位以上を修得 ・特別支援教育に関する科目は、14単位まで卒業要件単位に含むことができる 合計76単位以上修得 【卒業要件単位】 教養教育科目36単位以上、専門教育科目76単位以上を含め、計128単位以上修得 (履修科目の登録の上限:44単位(年間))						1学年の学期区分		2学期								
						1学期の授業期間		15週								
						1時限の授業時間		90分								

資 料 一 覧

- 資料 1 全国の心理学部の志願者および入学者動向
- 資料 2 2019 年 ビジネスパーソンが抱えるストレスに関する調査／チューリッヒ生命
- 資料 3 「テレワークの方が従業員のメンタルケアが難しい」／株式会社月間総務プレスリリース
- 資料 4 「ストレス」と「生産性」の関係をご存じですか？ 欧州 24 か国のデータから／ストレスケア・コム
- 資料 5 自殺の GDP 損失は 1 兆円／中央調査社
- 資料 6 在留外国人及び外国人労働者の状況等について
- 資料 7 卒業生の就職先の職種分類：心理学科と経営学科の比較
- 資料 8 データサイエンティストの採用に関するアンケート調査結果
- 資料 9 心身科学部心理学科（旧）から心理学部心理学科（新）への科目の読替表

資料1. 全国の心理学部の志願者および入学者動向

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度	平均
学部数	14	14	18	18	21	17
入学定員（人）	2195	2185	2723	2713	2968	2556
志願者数（人）	15051	17324	23026	28076	29548	22605
志願倍率	6.8	7.9	8.4	10.3	9.9	8.6
入学者数（人）	2198	2405	2935	2832	3098	2693
入学定員充足率（%）	100.1	110.0	107.7	104.3	104.3	105.28

令和2年度～平成29年度 私立大学・短期大学等入学志願動向より引用して作成

著作権者の許諾が得られない書類等について

1 (書類等の題名)

ビジネスパーソンが抱えるストレスに関する調査 (【資料 2】)

2 (出典)

チューリッヒ生命保険株式会社

3 (引用範囲)

https://www.zurichlife.co.jp/aboutus/pressrelease/2019/20190424_01

1 (書類等の題名)

「テレワークの方が従業員のメンタルケアが難しい」(【資料3】)

2 (出典)

株式会社月刊総務

3 (引用範囲)

「メンタルヘルスケアに関する調査」

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000004.000060066.html%20https://www.g-soumu.com/news/2020/10/mentalhealthcare.php>

著作権者の許諾が得られない書類等について

1 (書類等の題名)

「ストレス」と「生産性」の関係をご存じですか？ 欧州24か国のデータから
【資料4】

2 (出典)

株式会社メンティグループ

3 (引用範囲)

「職場のストレス」(ストレスケア・コム)

https://www.stresscare.com/report/stress_productivity.html

1 (書類等の題名)

「自殺の GDP 損失は 1 兆円」(【資料 5】)

2 (出典)

一般社団法人中央調査社

3 (引用範囲)

「中央調査報 (No.535)」より

<https://www.crs.or.jp/backno/old/No553/5532.htm>

著作権者の許諾が得られない書類等について

1 (書類等の題名)

在留外国人及び外国人労働者の状況等について (【資料 6】)

2 (出典)

愛知県

3 (引用範囲)

<https://www.pref.aichi.jp/uploaded/attachment/263540.pdf>

資料7 卒業生の就職先の職種の種類: 心理学科と経営学科の比較

職種	学科	年度				
		2015	2016	2017	2018	2019
事務職	心理	18.7%	16.8%	16.5%	21.6%	21.4%
	経営	11.4%	16.3%	11.6%	16.8%	10.9%
営業職・販売職	心理	18.7%	16.8%	16.5%	21.6%	21.4%
	経営	69.7%	65.2%	70.5%	65.6%	78.2%
サービス職	心理	51.4%	48.7%	59.6%	41.2%	35.0%
	経営	3.9%	2.5%	5.2%	3.6%	3.2%
保安職 (警察・消防・警備員等)	心理	2.8%	0.9%	1.8%	0.0%	2.9%
	経営	2.4%	4.3%	2.2%	1.4%	0.8%
教員	心理	3.7%	1.8%	0.0%	2.0%	1.9%
	経営	0.0%	0.4%	0.4%	0.0%	0.0%
製造技術者	心理	0.9%	0.9%	0.0%	0.0%	2.9%
	経営	0.0%	1.8%	3.0%	3.9%	1.2%
情報通信技術者 (SE・プログラマー等)	心理	1.9%	0.9%	2.8%	6.9%	10.7%
	経営	3.6%	3.3%	4.1%	4.3%	2.8%
その他	心理	1.9%	2.7%	8.3%	14.7%	9.7%
	経営	9.0%	6.2%	3.0%	4.3%	2.8%
言語聴覚士	心理	11.2%	12.4%	6.4%	9.8%	1.0%
	経営	-	-	-	-	-

著作権者の許諾が得られない書類等について

1 (書類等の題名)

データサイエンティストの採用に関するアンケート調査結果 (【資料 8】)

2 (出典)

一般社団法人データサイエンティスト協会 調査・研究委員会

3 (引用範囲)

https://www.datascientist.or.jp/common/docs/c-research_2019.pdf

資料9 心身科学部心理学科(旧)から心理学部心理学科(新)への科目の読替表

新(令和4年度入学生適用) 読替後の科目										旧(令和3年度入学生以前)	
科目区分	科目名	備考	単位数	開講 学年	講義 期間	必修	公認 心理師	特別 支援	科目名	開講 学年	
専門基礎科目	心理学概論I		2	1	春	○	○		心理学概論I	1	
	心理学概論II		2	1	秋	○	○		心理学概論II	1	
	心理学統計法I	※3	2	1	春	○	○		心理学統計法I	2	
	心理学統計法II	※3	2	1	秋	○	○		心理学統計法II	2	
	認知心理学I(知覚・認知心理学)	※3	2	1	秋	○	○		認知心理学a(知覚・認知心理学)	2	
	発達心理学I		2	2	春	○	○		発達心理学b	2	
	人格心理学I(感情・人格心理学)		2	2	春	○	○		人格心理学b(感情・人格心理学)	2	
	社会心理学I(社会・集団・家族心理学)		2	2	春	○	○		社会心理学b(社会・集団・家族心理学)	2	
	ストレスマネジメント入門	※1	2	2	秋	○					
心理学研究法		2	3	春	○	○		心理学研究法I	3		
専門基礎科目	学習・言語心理学	※3	2	1	春		○		行動心理学a(学習・言語心理学)	2	
	認知心理学II		2	2	春				認知心理学b	2	
	発達心理学II		2	2	秋				発達心理学a(生涯発達心理学)	2	
	人格心理学II		2	2	秋				人格心理学a	2	
	社会心理学II		2	2	秋				社会心理学a	2	
	生理学I(人体の構造と機能及び疾病)	※3	2	2	春		○		人体の構造と機能及び疾病	1	
	生理学II		2	2	秋						
	神経・生理心理学		2	3	春		○		神経・生理心理学	3	
	生理心理学		2	3	秋				生理心理学	3	
	心理学史		2	3	秋				心理学史	3	
	スポーツ心理学		2	3	春				スポーツ心理学	3	
	ポジティブ心理学		2	3	秋				発展講義2a(ポジティブ心理学)	3	
	カレントピクサーa	感情の生理心理学	2	3	春				発展講義1a(感情の生理心理学)	3	
	カレントピクサーb	感情の生理心理学	2	3	秋				発展講義1b(感情の生理心理学)	3	
	カレントピクサーc	深層心理学	2	3	春				発展講義6a(深層心理学)	3	
	カレントピクサーd	臨床実務論	2	3	秋				発展講義2b(臨床実務論)	3	
	カレントピクサーe	※1	2	3	春						
	カレントピクサーf	※1	2	3	秋						
	調査法I	※3	2	2	春				データ解析b	3	
	調査法II	※3	2	2	秋				心理学研究法II	3	
	ストレスマネジメント演習I	バイオフィードバック ※1	2	3	春						
	ストレスマネジメント演習II	臨床動作法 ※1	2	3	秋						
	心理学実践科目	臨床心理学I(臨床心理学概論)		2	2	春		○		臨床心理学a(臨床心理学概論)	2
多職種連携論			2	2	秋						
健康・医療心理学		※3	2	2	秋		○		健康・医療心理学	1	
臨床心理学II(心理学的支援法)		※3	2	3	秋		○		臨床心理学b(心理学的支援法)	2	
司法・犯罪心理学			2	3	春		○		司法・犯罪心理学	3	
精神疾患とその治療I			2	3	春		○		精神疾患とその治療a	3	
精神疾患とその治療II			2	3	秋		○		精神疾患とその治療b	3	
発展講義a		乳幼児心理学	2	3	春				乳幼児心理学	3	
発展講義b		心理療法 ※1	2	3	秋						
心理検査演習I		知能検査他	2	3	春				心理的アセスメントa		
心理検査演習II		ロールシャッハ	2	3	秋				心理的アセスメントa	3	
面接法・介入法(心理的アセスメント)			2	3	秋		○		心理的アセスメントb	3	
人格・臨床心理学演習I		※2.3	2	3	春				人格心理学演習a・臨床心理学演習a	2	
人格・臨床心理学演習II		※2.3	2	3	秋				人格心理学演習b・臨床心理学演習b	2	
文化心理学		※1	2	2	春						
障害者・障害児心理学		※3	2	2	春		○		障害者・障害児心理学	1	
教育心理学I(教育・学校心理学)			2	2	春		○		教育心理学a(教育・学校心理学)	2	
教育心理学II			2	2	秋				教育心理学b	2	
障害者教育総論		※4	2	2	春			○			
肢体不自由者の自立活動の理論と実際		※4	2	2	秋			○			
多文化・共生分野		知的障害児指導法	※4	2	2	春			○		
		異文化理解	※1	2	3	秋					
		ケアマネジメント	※1	2	3	春					
	発展講義c	高齢期心理学 ※1	2	3	春						
	発展講義d	青年心理学	2	3	秋				青年心理学	3	
	発展講義e	社会的認知	2	3	春				発展講義4a(社会的認知)	3	
	発展講義f	社会的認知	2	3	秋				発展講義4b(社会的認知)	3	

新(令和4年度入学生適用) 読替後の科目										旧(令和3年度入学生以前)	
科目区分	科目名	備考	単位数	開講学年	講義期間	必修	公認心理師	特別支援	科目名	開講学年	
多文化・共生分野	発展講義g	コミュニケーション ※2	2	3	春				現代社会とコミュニケーションa、b	3	
	発展講義h	生物学的適応の心理学 ※3	2	3	秋				行動心理学b	2	
	発達・教育心理学演習I	※2,3	2	3	春				発達心理学演習a・教育心理学演習a	2	
	発達・教育心理学演習II	※2,3	2	3	秋				発達心理学演習b・教育心理学演習b	2	
	社会・産業心理学演習I	※2,3	2	3	春				社会心理学演習a・産業心理学演習a	2	
	社会・産業心理学演習II	※2,3	2	3	秋				社会心理学演習b・産業心理学演習b	2	
	専門展開科目	産業・組織心理学I		2	2	春				産業心理学a	2
		産業・組織心理学II		2	2	秋		○		産業心理学b(産業・組織心理学)	2
		データサイエンス入門	※3	2	2	春				データ解析a	3
		感性工学	※1	2	2	秋					
		消費者行動論	※3	2	2	秋				社会行動論a	3
		製品評価の心理学	※1	2	3	春					
		多変量解析I	※3	2	3	春				計量心理学a	2
		多変量解析II	※3	2	3	秋				計量心理学b	2
		行動経済学	※1	2	3	春					
		発展講義i	住環境の心理学	2	3	春				発展講義6b(住環境の心理学)	3
		発展講義j	応用認知心理学 ※1	2	3	秋					
		実験心理学演習I	実験計測 ※3	2	3	春				認知心理学演習a・行動心理学演習a	2
	実験心理学演習II	プログラミング演習 ※3	2	3	秋				認知心理学演習b・行動心理学演習b	2	
	情報ビジネス心理学演習I	機械学習	2	3	春				計量心理学演習a		
情報ビジネス心理学演習II	ビッグデータ分析	2	3	秋				計量心理学演習b			
デジタルデザイン演習	※1	2	3	秋							
専門総合科目	心理学実験I	※3	2	2	春	○	○		基礎実験演習I-II(心理学実験I-II)	1	
	心理学実験II		2	2	秋	○	○		一般実験演習I-II(心理学実験III-IV)	2	
	プレセミナー		2	3	春	○			総合研究演習I	3	
	総合研究演習I		2	3	秋	○			総合研究演習II	3	
	総合研究演習II		2	4	春	○			総合研究演習III	4	
	総合研究演習III		2	4	秋	○			総合研究演習IV	4	
	卒業研究		4	集中					卒業論文	4	
公認心理師専用科目	公認心理師の職責		2	2	秋		○		公認心理師の職責	2	
	福祉心理学		2	3	秋		○		福祉心理学	3	
	関係行政論		2	3	春		○		関係行政論	3	
	心理演習		2	3	春		○		心理演習	3	
	心理実習I		1	3	秋		○		心理実習I	3	
	心理実習II		1	4	春		○		心理実習II	4	
	心理実習III		1	4	秋		○		心理実習III	4	
資格取得科目	知的障害者の心理・生理・病理		2					○			
	病弱者の心理・生理・病理		2					○			
	肢体不自由者教育論		2					○			
	病弱者教育論		2					○			
	視覚障害教育総論		2					○			
	聴覚障害教育総論		2					○			
	重複障害・軽度発達障害教育総論		2					○			
	廃止		2					発展講義3a	3		
	廃止		2					発展講義3b	3		
	廃止		2					発展講義5a	3		
	廃止		2					発展講義5b	3		
	廃止 ※5		2					健康医学入門(医学総論を含む)	1		
	廃止 ※5		2					健康医学(内科学を含む)	2		
	廃止 ※5		2					リハビリテーション医学	2		
	廃止 ※5		2					社会福祉・教育(社会保障制度、リハビリテーション概論及び関係法規を含む)	3		
	廃止 ※5		2					言語学総論・各論	2		
	廃止 ※5		2					学習認知心理学	2		
	廃止 ※5		2					言語発達学	2		
	廃止 ※5		2					心理測定法	3		
	廃止 ※5		2					音声学総論・各論	2		
	廃止 ※5		2					音響学・聴覚心理学	2		
	廃止 ※5		2					失語症 I	2		
	廃止 ※5		2					失語症 II	3		

新(令和4年度入学生適用) 代替後の科目										旧(令和3年度入学生以前)	
科目区分	科目名	備考	単位数	開講 学年	講義 期間	必修	公認 心理師	特別 支援		科目名	開講 学年
		廃止 ※5	2							高次脳機能障害学	3
		廃止 ※5	2							言語発達障害学Ⅰ	2
		廃止 ※5	2							言語発達障害学Ⅱ	3
		廃止 ※5	2							脳性麻痺・学習障害論	3
		廃止 ※5	2							小児科学	3
		廃止 ※5	2							音声・言語・聴覚系神経医学	2
		廃止 ※5	12							臨床実習	4
		廃止 ※5	2							解剖学	1
		廃止 ※5	2							生理学	1
		廃止 ※5	2							病理学	2
		廃止 ※5	2							口腔機能論 (臨床歯科医学を含む)	1
		廃止 ※5	2							耳鼻咽喉学	3
		廃止 ※5	2							臨床神経学	2
		廃止 ※5	2							形成外科学	2
		廃止 ※5	2							口腔外科学	2
		廃止 ※5	2							音声・言語・聴覚医学 (神経系の構造、機能及び病態を含む)	2
		廃止 ※5	2							言語聴覚障害総論	1
		廃止 ※5	2							言語聴覚障害診断学	4
		廃止 ※5	2							発声発語障害学Ⅰ(音声障害)	3
		廃止 ※5	2							発声発語障害学Ⅱ (機能性構音障害総論・各論)	2
		廃止 ※5	2							発声発語障害学Ⅲ (器質性構音障害総論・各論)	3
		廃止 ※5	2							発声発語障害学Ⅳ (運動障害性構音障害総論・各論)	3
		廃止 ※5	2							嚥下障害総論・各論	3
		廃止 ※5	2							吃音	3
		廃止 ※5	2							聴覚障害・視覚聴覚二重障害(小児聴覚障害、成人聴覚障害を含む)	3
		廃止 ※5	2							聴力検査	2
		廃止 ※5	2							補聴器	3
		廃止 ※5	2							人工内耳	3
		廃止 ※5	2							心理診断学演習	3
		廃止 ※5	2							言語聴覚心理評価学	4
		廃止 ※5	2							言語機能評価学演習	3
		廃止 ※5	2							言語聴覚学基礎演習	2
		廃止 ※5	2							言語聴覚学総合演習	2
		廃止 ※5	2							特殊演習1a (コミュニケーション障害学)	3
		廃止 ※5	2							特殊演習1b(コミュニケーション障害学)	3
		廃止 ※5	2							特殊演習2a(言語聴覚嚥下障害学)	3
		廃止 ※5	2							特殊演習2b(言語聴覚嚥下障害学)	3
		廃止 ※5	2							健康科学総合演習	3

※1 心理学部心理学科(新カリキュラム)にて新規に開講する科目
 ※2 心身科学部心理学科(旧カリキュラム)における複数の科目を統合し、心理学部心理学科(新カリキュラム)にて開講する科目
 ※3 開講学年を変更した科目
 ※4 教職課程(特別支援)の科目から、専門科目に移行された科目
 ※5 言語聴覚士資格課程の廃止に伴う変更